

地域の会 質問・意見書

日付： 2023年 2月 15日

氏名： 宮崎 孝司

新潟県

に対する(質問)・意見(いずれか○)

2月の地域の会で説明された「R4年に行われた原子力防災訓練について」質問します。

P2に原子力防災訓練の目的が「(2)・・・原子力災害発生時の避難対応力向上を図る」とあります。原子力災害発生時、PAZ 住民柏崎市7地区 15,000人、刈羽村 4,600人、UPZ 住民 24地区 67,000人を県内各地の避難所に誘導することが「広域避難計画」になります。PAZとUPZで避難開始時期が異なりますが、それぞれほぼ一斉に大勢が避難行動をとるわけです。それも各自自家用車、バスで、多方面に避難するわけですから、誘導する方法、資材、人等が適切でなければ本当の「対応力」が評価・検証できません。

R4年の訓練の目的(1)に「・・・防災業務関係者の防災技術の習得を図る。」となっています。また、総合訓練と銘打った内容は、細々とした訓練です。「広域避難」での「対応力」の向上につながるわけがありません。

質問1—1 新潟県原子力災害広域避難計画によれば、「計画は広域避難の考え方及び具体的な対応等をまとめたもの」とあり、柏崎市の原子力災害広域避難計画の目的には、「広域的避難に必要な体制等を構築する。」となっていました。福井県のおおい町の「原子力災害時における住民避難計画」の趣旨には「あらゆる搬送手段により、迅速、確実に住民の避難を行う」となっていました。福井県は住民避難を明確しているのに対して、新潟県や市は、避難体制の構築に目的があり、住民避難は後景になっているように思えます。

新潟県の「広域避難計画」は、避難住民を避難所に誘導することを目的にしていないのでしょうか。

質問1—2 原子力災害発生時の目的達成のために、実際に事故が起こった状態に近いものでなければ、対応力を見極められないと考えます。県のすべての避難経路所、避難所に住民(全住民とは言いません)を誘導する訓練は、いつ行いますか。

質問1—3 顔認証による受付を高く評価していますが、全経路所、避難所、スクリーニング会場に機器を配置すると何セット必要か、機器を運用する職員(行政職か、民間か)は全体で何人必要か、平時の保管場所はどこか、メンテナンスはいつ行うのか、教えてください。(質問)

有事の際、これらの機器が迅速に運用されなければ対応力なしということになります。

以上

地域の会 質問・意見書

日付： 2023年 2月 15日

氏名： 宮崎 孝司

柏崎市

に対する(質問)・意見(いずれか○)

2月の地域の会で、妙高市の避難所が、どこの町内が利用するのか聞きましたが、答えてもらえませんでした。県は、指定避難所(学校等と言っています)の保健室等を救護所に指定すると言っています。学校だけが避難所となるわけではありません。コミセンや集会施設が避難所になった場合、どこが救護室になるのか、避難者としては、建屋に入って確かめたい。避難したその日から、仮設住宅に移るまで長期間暮らすことになるところです。避難訓練は、住民を避難させるわけですから、全住民を分割してでも、一度は避難所にきちんと案内してください。

質問一1 西中通地区の春日、橋場町内会約1100世帯、2900人が、杉ノ原スキー場へ行きますから、妙高市総合体育館には、下原から長崎新田までの8町内会のどこが避難所にするのですか。(質問)

質問一2 2月1日の回答では、「市が妙高市と調整して」とありますが、各町内の世帯数や人数は市が知っているわけですから、妙高市の各避難所の居住スペースと収容者数がわかれば、あらかじめ避難所と町内会を決めることができるのではありませんか。まさか、事故当日、調整がつくまで避難者を避難経路所に待たせて、決まったところから順次、移動するようなことはないと思いますが、いつでもできると思います。市は、いつ調整する考えですか。(質問)

質問一3 原子力災害の避難は、福島事故を見れば10年以上、柏崎に戻ることはありません。避難所の次は、仮設住宅に移ることになります。避難から何年後に仮設住宅に移るのでしょうか。(質問)

質問一4 中越沖地震の際の仮設住宅の耐用年数は、身近かかったように思います。10年以上避難する場合、耐用年数の長いものになるのでしょうか。福島では、どのような対策がされたのでしょうか。(質問)

以上

地域の会 質問・意見書

日付： 2023年 2月 15日

氏名： 宮崎 孝司

東京電力

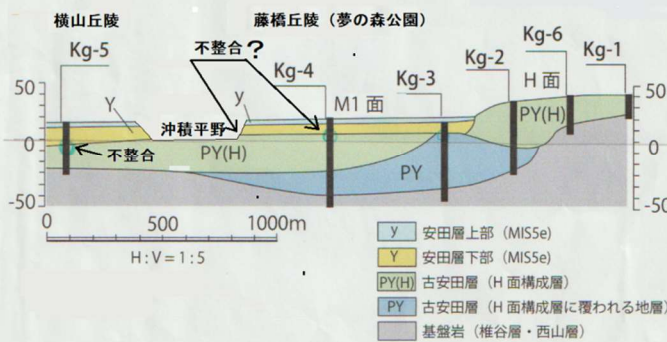
に対する(質問)・意見(いずれか○)

2月1日の地域の会で、安田層と古安田層の不整合地点についての回答をもらいましたが、納得できないので再度お聞きします。

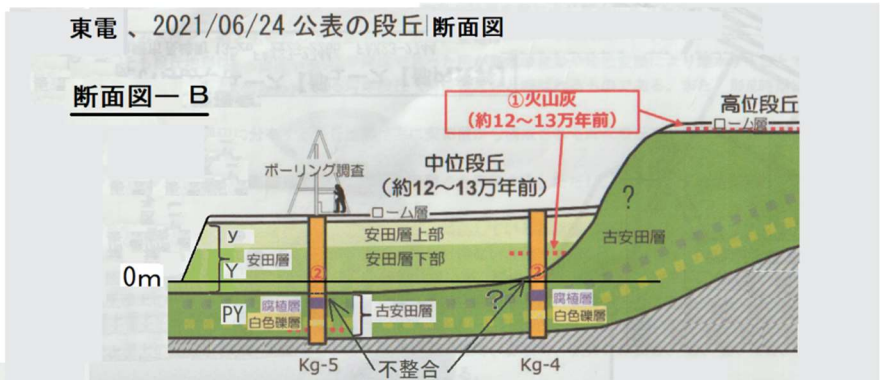
質問1—1 安田層と古安田層は不整合関係にあることを認めて質問しています。回答の中に「地質調査結果から、段丘面の標高や各層序の出現標高を参考に作成した地質平面図」「夢の森公園の丘陵は、上部が安田層、下部が古安田層で構成されると考えております。」とあります。東電は、地質平面図の他、断面図(模式的)も公表しています。公表された図を使わせてもらいお聞きします。



断面図一 A



柏崎平野南東部の地質断面図 東京電力ホールディングス(株)



※東電が公表した図に、説明に必要な書き込みをしたもの

「地質調査結果」をもとにこの平面図も断面図もできたわけです。「上部が安田層、下部が古安田層で構成される」との東電の考えが、「調査結果」で「実証」できるものと思ってお聞きします。横山丘陵の地下に「不整合」があることは、理解しました。ならば、断面図のKg-4(夢の森公園周辺)のボーリングで、「不整合」を立証するコアが得られたわけです。「得られた」と理解してよろしいですか。(質問)

質問1—2 平面図では、「夢の森公園の丘陵」は、濃い緑色 = PYで縁取られ、内側に薄い緑色 = yが塗られています。丘陵の上は安田層上部、下は古安田となっている。しかし、断面図では、上と下の中間に安田層下部が存在すると示されています。平面図を訂正しないのですか。(質問)

質問 1—3 東電の調査で断面図の Kg-4 に「不整合」が確認されたわけですから、丘陵の側面・崖に「不整合」箇所がみられるはずですが。藤橋の北側や東側、夢の森公園の散策道に行っていますが、それらしいものが見えませんでした。これまでの回答は、「総合して」とか「考えて」とはぐらかされていますが、ボーリング Kg-4 の位置を教えてください。しっかり見てきます。

ボーリング Kg-4 の位置はどこですか。(質問)

質問 2—1 かつて、姉川常務が「避難計画が出来なければ再稼働することはない。」と明言されていたので、1月30日、東電の市民説明会で姉川常務の発言は、今も東電の考えとして引き継がれたのか質問しました。橋田新潟本社代表から、「東京電力が、広域避難計画の完成状態を評価する立場にない。」との趣旨の説明を聞きました。この回答は、「姉川常務の発言・考えは、引き継いでいない。」ということですか。(質問)

質問 2—2 「東京電力が、広域避難計画の完成状態を評価する立場にない。」とする考えは理解しました。

しかし、疑問は、東電は仮置きとして言っている今年10月の営業運転前に、運転の「地元の同意」を求めるわけです。新潟県は、避難訓練を繰り返して、より実効性のある計画にすると言っていますが、裏を返せば、今は実効性のない計画だと宣言しています。広域避難計画が実効性のないものであっても、東電は「地元の同意」を求めるということですか。(質問)

以上